

**第25回： 奥谷 純子 さん（吉野製箸J企画 代表）****どんな会社ですか？**

吉野町の地域産業である割箸の製造工程のうち、最終段階で木目の細かさや木肌の色などにより等級別に分ける「選別」作業を行う共同作業所を運営しています。

箸を一本一本、目で見て、檜の箸なら3~4種類、杉の箸なら7~8種類の等級に分けま

す。  
従来は製箸業の方々がそれぞれ内職の人を抱えて行っていました。内職の人を見つけるのが以前よりも難しくなってきたため、共同作業所でまとめて作業を受けることで、製箸業の今後の継続をサポートしようと思って起業しました。

**起業してみてどうでしたか？**

共同作業所で複数の製箸業の方から仕事を受けていろいろな種類の箸を扱うことで、杉か檜か材料によって、また、箸の形など種類によって、選別作業の効率が違うことが分かりました。

また、不良品の発生状況から、選別以前の工程を見直すことで製箸業の事業効率の向上とコストダウンが可能であることが分かりました。

**起業時、重要だった課題は？**

人材の確保、販売先の確保、起業場所、起業に伴う各種手続きです。

**課題はその後、どうになりましたか？**

人材の確保については、内職を担う70歳代、80歳代は共同作業所までの通勤が大変なので、車を運転できる友人全員に声を掛けました。育成は吉野製箸工業協同組合（以下、組合）に相談しました。

販売先の確保は、組合員の方々から仕事をいただきました。箸を削るときに出る杉や檜の木屑（木毛：もくげ）も有効活用し、販売したいのですが、価格の割に送料がかさむので販売先の確保に苦労しています。

起業場所は、組合の場所を借りたのですが、機械導入に伴う動力整備が必要になり、作業所は組合員の製箸所の一角を貸していただき、事務所は自宅を使うことにしました。起業に伴う各種手続きは、商工会にサポートしていただきました。創業補助金のことも商工会の方が教えてくださいました。

## 起業時、役に立った相談・支援機関は？

商工会です。奈良県商工会連合会の支援相談員や、商工会の事務局の方に情報やサポートをいただきました。

## 起業前の経験は活きていますか？

学校を卒業後は大手電機メーカーに就職し、結婚退職して現在の地に来ました。すぐに組合に事務職員として入ることになり、出産後も家族に支えられながら続けましたが、子どもが二人になった時点で退職して育児に専念しました。子育てが一段落したので組合の事務職に復職し、現在も自社の経営と並行して組合への勤務は続けています。業界や地域産業の状況に対する理解、これからの展望、組合員の皆さんとの信頼関係など、今までの経験で得たものは現在の事業に欠かせないものばかりです。

## 今後の抱負は？

地域産業である製筍業をいかに継続させていくか、組合員の皆さんとともにがんばっていきたいと思います。イベント等での直接販売や木屑（木毛：もくげ）の有効活用にも注力していきたいと思います。間伐材を使って割筍を作ることで山が維持され、環境保全に繋がることを、吉野町から発信していきたいと思います。



## 企業情報

商号	吉野製筍 J 企画
業種	製造業
起業年	2013 年
企業 HP	<a href="http://www.yoshinonohashi.com/">http://www.yoshinonohashi.com/</a>
所在地	〒639-3432 奈良県吉野郡吉野町窪垣内 115
連絡先	0746-36-6333